



Weekly Market Report

Apr 18, 2022

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

本邦金融当局者からの円安けん制発言が出てくるか注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は124円台前半から126円半ばで推移。週初は黒田総裁が「経済への影響を注視し、必要があれば躊躇なく緩和していく」と言及。金融引き締めを加速させる米国との金融政策スタンスの違いを背景に円売り・ドル買いが強まりNY時間にかけて125円台後半まで急伸。3月の米消費者物価指数は事前予想を下振れし125円割れまで下落。週中は、鈴木財務相、松野官房長官が足元の円安について言及するも市場への反応は限定的でドル円は海外時間にかけて約20年ぶりの円安水準となる126円台を付けたが、その後は利益確定売りに押され125円台前半までシリアの展開となるも、NY連銀のウィリアムズ総裁が「0.5%の利上げは妥当」と支持したことで再度126円台半ばまで戻して越週。今週も引き続き、日米の金融政策スタンスの違いから円売り継続の展開を予想。(市場営業部/山下)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/18(月)	(中国) 第1四半期GDP	4.2%
4/19(火)	(米国) シカゴ連銀総裁講演	-
4/20(水)	(米国) ペーजूブック	-
4/21(木)	(EU) ラガルドECB総裁講演	-
4/21(木)	(米国) パウエルFRB議長講演	-

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

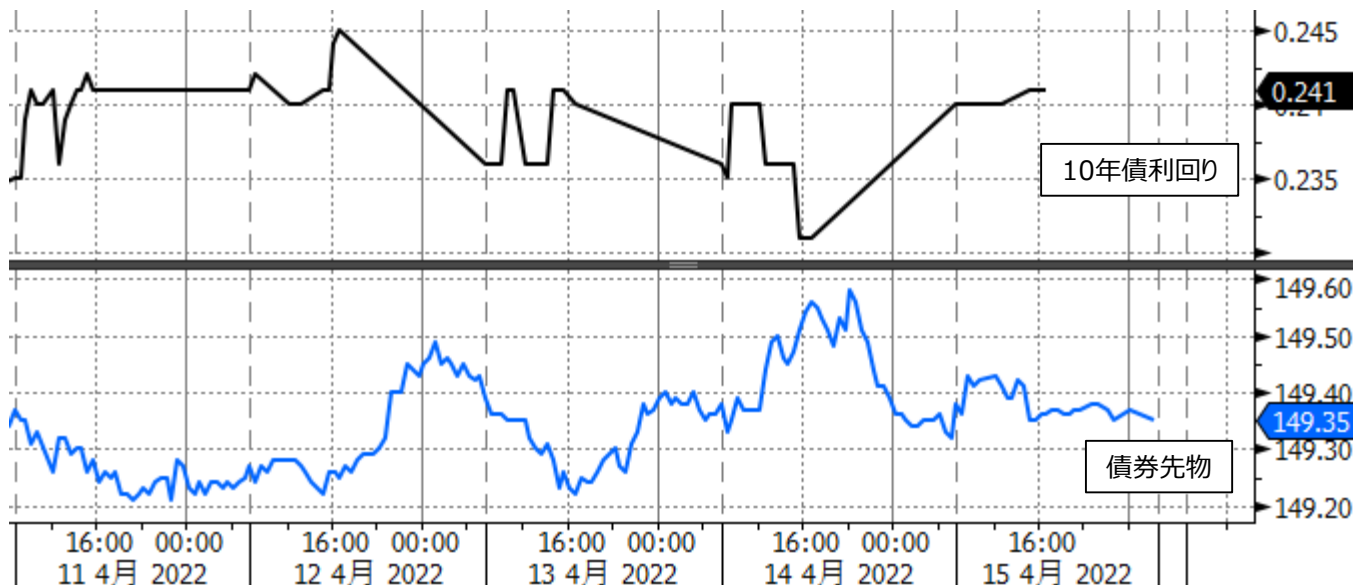
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
嵯峨大輝	125.90 - 127.90	FRB高官のタカ派発言や米金利の上昇圧力によって、引き続きドル円は底堅い展開が続くと予想。
三原大希	125.70 - 127.30	米金利が高止まりしており、ペーजूブックやパウエルFRB議長等の要人発言次第で更なる上値を試す展開を予想。

2. 円金利相場概況

日銀によるイールドカーブコントロール政策のもとで10年国債金利の上昇余地は限定的

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



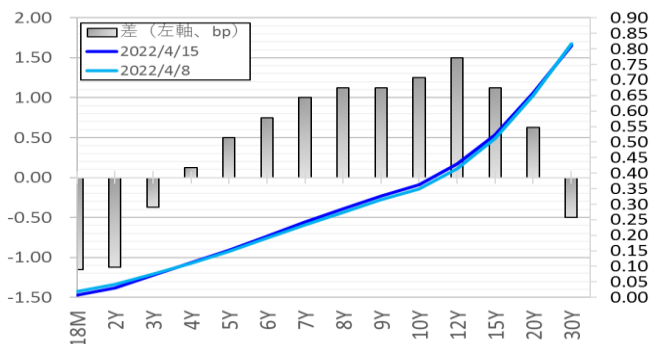
コメント

先週の10年国債金利は0.230-0.245%のレンジで推移。週初の10年国債金利は0.23%台からの開始となったが、米国におけるインフレ懸念の高まりから米10年国債金利が2.83%を付けると、10年国債金利も0.245%まで上昇。ただし、火曜日の米消費者物価指数において食品とエネルギーを除くコア指数の伸びが鈍化したことでFRBの利上げ期待が剥落し、米金利の低下につれる形で10年国債金利の上昇も一服となった。木曜日の20年国債入札については、平均落札金利0.724%、最高落札金利0.742%、テール幅は31銭と2016年11月以来の水準まで拡大する結果となったが、機関投資家の買いも入ったことで超長期ゾーンの金利低下が進みイールドカーブはフラットニングする展開となった。その後は方向感なく推移し、10年国債金利は0.24%程度で越週している。今週の10年国債金利ももみ合い継続か。FRBの金融引き締め姿勢を受けて米金利の上昇圧力は強いものの、日銀によるイールドカーブコントロール政策のもとで円金利の上昇は限定的とみられる。(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

(出所) Bloomberg

金利スワップ変化（1週間）

(%)



10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.21% - 0.25%	今週もレンジ内もみ合いを予想。月末の日銀政策決定会合に向け、政策変更に関するバレーン記事の動向に留意が必要。
小野口裕美子	0.22% - 0.245%	YCC上限の10年0.25%が目前のためJGB10年は上昇余地少なく、27・28日の決定会合まで円金利はもみ合いか。

3. 今週のトピックス 豪ドル相場アップデート

4月RBAの金融政策決定会合の概要とウクライナ侵攻による資源価格の高騰

4月RBA金融政策決定会合の概要

2022年4月5日の豪州準備銀行（以下RBA）の理事会では政策金利0.10%の据え置きが決定された。声明文では、従来あった「（利上げの条件が整うまで）利上げを忍耐強く待つ用意が来ている。」との文言が削除され、利上げ時期前倒しへの期待が高まりつつある。具体的な利上げ時期については、「今後のインフレ率と労働コストのデータを評価した上で、利上げの開始時期を判断したい」と発表しており、今後のインフレ動向、賃金指数次第では今年中の利上げの可能性が考えられる。4月5日のRBA以降、早期利上げへの期待から豪州10年債利回りは上昇しており、今後もRBAの動向を注視する必要があると。

資源価格の高騰と豪州経済動向

豪州主要輸出品目である石炭の価格は、コロナ禍からのグローバル経済の回復の兆しが見えた2021年以降、需要の回復に供給が追い付かず価格は高騰が続いていた。2021年10月下旬ごろに一度は価格が下落したが、豪州での豪雨の影響で採掘量が減少したことを受けて、価格は高騰を続けてきた。このような環境下で、2月下旬のロシアによるウクライナ侵攻は石炭価格の高騰を更に加速させ、3/2には代替需要によって石炭価格446米ドル/トンまで上昇し、過去最高値を更新した。同じくロシアの主要輸出品目である天然ガスについても価格は高騰しており、3/2に欧州市場で最高値を更新した。

これらの資源価格の高騰は、豪州経済に貿易黒字による経常収支の改善、賃金の向上をもたらすものと考えられている。4月12日に発表されたNAB景況感指数では9ポイント上昇の+18と大幅に改善しており、売上高の指数は13ポイント上昇して+24、雇用指数では4ポイント上昇して+12となり、失業率が近く4%を下回ることを示している。

資源価格の高騰とRBA後豪ドル動向

資源価格の高騰は豪州経済にとっては、豪州経済にとって追い風となっている。ロシアによるウクライナ侵攻による資源価格の高騰して以降、豪ドルは対円、対米ドルでは共に上昇している。一方金融緩和縮小については、既に利上げを実施している米国と比べて少し遅れてはいるものの、昨今の資源価格の高騰はインフレを加速、賃金の引上げを誘発するものであり、市場参加者の中には豪ドル相場への強気の見通しが広まりつつある。

今後、4/27消費者物価指数、5/18の賃金指数などの経済指標発表が予定されており、これらの経済指標発表がされた後の、6/7RBA理事会で利上げについてどのように言及されるかに注目していきたい。

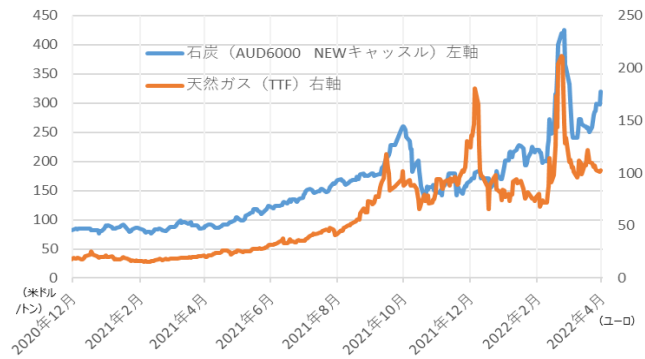
（市場営業部/三原）

【図1】 豪州10年債利回りの推移



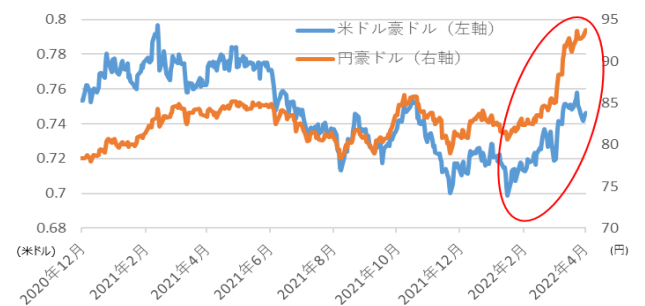
（出所：Bloomberg）

【図2】 石炭価格、天然ガス価格の推移



（出所：Bloomberg）

【図3】 対円、対米ドル推移



（出所：Bloomberg）

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会